きこえの教室学習指導案

指導者　Ｔ１　金井　あかね
Ｔ２　小暮　慶

１　題材名　「どんなかんじかな」～子どもたちのレジリエンスを育てる～（３年生）

２　児童の実態

３年生は発達段階において他者理解をし始め、視野が広がる学年である。学習の中で本音を活発に発言できると考える。本校の３年生は上記のような様子に加え、好奇心旺盛で、興味があることを学ぼうとする勢いが感じられる学年である。４月からきこえの教室がある西校舎で生活を始め、雨の日に手話を習いに来たり、自分の名前を指文字で表したりしている。また、新しい知識を吸収しようと意欲的であり、掃除の時間に手話を使って終わりのあいさつをしようとするなど、自主的に得た知識を活用しようとする姿勢も見られる。このような様子から、今回の「どんなかんじかな」という題材を学習し、一番興味をもち学習に取り組むことができるのは３年生だと考えている。

本校の３年生の普段の活動の様子を見ていて、友達を手助けしようとするものの、相手が何に困っているのかニーズに応じた手助けはまだまだ難しい段階だと見て取れる。今回の学習を通して相手のことを思いやり、自分にできることを行動に移す姿勢を育てていきたいと考えている。

本学級は元気で何事にも積極的に取り組むことができる子どもたちが多いクラスである。４月にクラス替えをして２か月がたち､少しずつ新たな人間関係を築いてきている｡クラスには日本語指導をうけ、日常会話の１割程度しか理解できない子もいるが、たくさんの子どもがサポートしようとする姿が見られる。しかし、そのサポートは本人に代わって何かをしてあげるものであり、本人が何に困っているのか、本人が何を感じているのかを考えようとすることはできていない。この学習を通して、思いやりの形は様々であることや、相手の立場に立って考えることの大切さについても感じてほしい。

３　題材について

本校において難聴児が在籍する学級では、難聴理解授業を行い、きこえにくいことに対しての配慮事項を繰り返し伝えてきた。その中でも難聴児が２人在籍する６年生では、今までの授業の積み重ねにより、難聴児に率先してノートテイクをする姿や、口形をはっきりさせゆっくりと話しかける姿が見られている。この６年生の姿を通して、子どもたちは知識があればその場面に合った配慮を考えることができると実感している。

本学級では難聴に対する知識はほとんど浸透していない状態である｡「どんなかんじかな」の学習では、まず１時間目に、担当者の体験談や補聴器体験・騒音計による教室環境音の測定体験を通して、補聴器を通して聞こえてくる音を聞き、教室には雑音があふれていることを知る。２時間目には、消音マットをつけることで静かな教室環境になることを理解する。ここまでの体験で初めて知った難聴に対しての知識をふまえて、きこえの教室に通う子どもたちの話をもとに「自分だったらどうしてほしいか」という視点で考える活動を行う。今回は、相手を思いやることを通して自分の良さに気づくことを子どもたちのレジリエンスだと捉えている｡思ったことや自分の考えを飾りなく表現し､友達や先生と認め合い、自信をつけていくことで、子どもたちのレジリエンスを育てていきたい。

きこえの教室に通級する子どもたちと出会う機会があるということからも、今後も３年生で難聴について知る授業を行うことを位置付けていきたいと考えている。授業を継続していくことで、院内小は数年後には全校児童が難聴に対する知識を身につけた特色のある学校になる。難聴児の気持ちを担当者が代弁するという方法で授業を組み立て、通常の学級の子どもたちが「どんなかんじかな」「自分だったらどうしてほしいかな」と考える学習で、相手のことを思いやる心を育てていきたい。担任と一緒に授業を行うことにより､「院内小の先生方の難聴に対する理解を深めてもらえる｡」「振り返りの場面で、学級の実態に合わせた進め方ができる｡」という利点を生かし、難聴児にとって安心して学習ができる環境を

つくっていきたいと思う。この啓発授業を行うことで、インクルーシブ教育の構築にきこえの教室の担当者の立場から貢献できたらと考えている。

4　指導計画（２時間扱い）

時数	活動内容	目標
1	体験してみよう	担当者の体験談や体験（補聴器・音の大きさの計測）を通して、きこえの教室や聞こえにくさについて知ることができる。
1	感じて考えてみよう	きこえにくさを知ることを通して、相手の立場を思いやる大切さに気付くことができる。（本時）

5　前時の目標と展開

⑴目標

・担当者の体験談や体験（補聴器・音の大きさの計測）を通して、きこえの教室や聞こえにくさについて知ることができる。

⑵展開　（1/2）　※「ひとみちゃん」は仮名

学習活動と内容	教師の支援 T1（○）T2（☆）と評価（◆）	教具・教材
1　あいさつをして、本時のねらいについて知る。	☆今日の学習のねらいや内容について簡単に伝える。	
きこえの教室やきこえにくさについて知ろう		
2　きこえの教室の担当者の話を聞く。 ・担当者の自己紹介をする。 隣の家のひとみちゃんの話 （補聴器をつけていたこと） 院内小のきこえの教室の担当になることができたこと ・きこえの教室○×クイズに答える。	○興味をもって話を聞けるように説明の途中にクイズを入れる。 ・市内にきこえの教室は１０校ある。 ・きこえの教室は４組まである。 ・きこえ 1 組の先生は○○先生である。 ・きこえの教室には 7 時間目がある。 ・18 人の子どもが通っている。 ・補聴器をつけていないと通えない。	大型 TV PC、ｹｰﾌﾞﾙ （資料提示に使用） 説明用プレゼン資料
3「ゆびもじあいうえお」の歌を歌う。 ・似ている形の指文字を知る。 ・歌に合わせて５０音を指文字であらわす。	○同じ指の形でも向きが違うと他の音になってしまう指文字について取り上げ、混乱しないように担当者と一緒に確認する。 ○指文字は、ただの振り付けではなく、きこえにくい人が同じ口形の言葉を区別する時に役立つものであることを伝える。	指文字ｶｰﾄﾞ「指文字あいうえお」のプレゼン資料
4　補聴器体験をする。 ・ひとみちゃんや A 小でも 4 人の友達がつけている補聴器を実際に試聴する。 ・補聴器をつけたまま、椅子のガタガタ音、ビニールのシャカシャカ音を聞いてみる。 「いろいろな音が響いていた」 「うるさかった」	☆補聴器を交代しながら試聴する時に、2 名 1 組のグループを組めるように指示を出す。 ○試聴していない方の児童に音を立てる役割を与え、普段の教室の雑音が再現できるようにする。	補聴器の図 試聴用補聴器、ｽﾃｿﾞｽｺｰﾌﾟ、ｳｪｯﾄﾃｨｯｼｭ ｽｰﾊﾟｰの袋

5　音の単位と大きさを知る。 ・デシベルという単位を紹介する。 ・一番かすかな音（０ｄＢ） ・木の葉の音（１０ｄＢ） ・ひそひそ話（３０ｄＢ） ・先生の話し声（７０ｄＢ） ・防犯ブザーの音（９０ｄＢ） ・ジェット機の音（１２０ｄＢ）	○環境絵（視覚資料）を示して、それぞれの音の大きさが何デシベルであるのかを説明する。 ○教卓の実物投影機の上に騒音計を置き、TV につないでみんなで数値が見られるようにする。	騒音計 実物投影機 大型 TV 環境絵 計測した結果を書く掲示物
・実際に何も音を立てない教室を計測する。（2 年前 4 年生の教室計測結果４２ｄB）	○普段過ごしている教室環境は騒音があることに触れ、補聴器でそれらの音を拾ってしまうことに触れる。	
6　振り返りをする。 ・今日わかったこと、感じたこと、質問などを感想用紙に記入し、発表する。 「静かな教室は０ｄＢだと思ったのに、４０ｄＢ もあってびっくりしました。」 「うるさく聞こえたので、補聴器の人のそばでは静かにしようと思いました。」	○☆児童が発表しやすいように、事前に席を回って、声を掛けておく。 ◆担当者の体験談や体験（補聴器・音の大きさの計測）を通して、きこえの教室や聞こえにくさについて知ることができたか。 ☆今日の学習のまとめをし、次時につなげる。	感想ｶｰﾄﾞ

6　本時の指導と展開

⑴目標

・きこえにくさを知ることを通して、相手の立場を思いやる大切さに気付くことができる。

⑵展開　（2/2）　※「サオリちゃん」は仮名

学習活動と内容	教師の支援 T1（○）T2（☆）と評価（◆）	教具・教材
1　あいさつをし、本時のねらいを知る。	☆今日の学習のねらいや内容について簡単に伝える。	
きこえにくさを知ること通して相手の気持ちを考えよう。		
2　前時の振り返りをする。 「補聴器をつけるとうるさかった。」 「静かな教室でも３４ｄB もあってびっくりした。」	○前時を想起できるように、補聴器の図や計測した結果を書いた掲示物を提示する。	教室の騒音を計測した結果を書いた掲示物
3　椅子に貼る消音マットについて知る。 ○椅子にマットを貼った列が立つ時の騒音と、貼っていない列が立つ時の騒音を聞き比べる。	○☆マットの有無での違いが分かりやすいように、クラスを半分に分け、事前に椅子に消音マットを貼っておく。 ☆予告せずにマットがある列、ない列で立つように指示する。 ○消音マットのおかげで先生の声が聞きやすくなったクラスがあったことを伝える。	消音マット

4　きこえの教室の友達の話を聞いて考える。 ○きこえの教室に通う友達の話を聞く。 自分の耳のことを学級で話して「かわいそう」と言われたサオリちゃんの話 ・話を聞いて、サオリちゃんはどんな気持ちだったのか、サオリちゃんの気持ちは友達にわかってもらえたのかを考え、ワークシートに書き込む。班の友達と話し合い、学級全体で共有する。	○学習問題に注目させて、相手の気持ちを考える活動であることを知らせる。 ○ワークシートの使い方を説明する。 ☆自分の立場を決め、話し合いでお互いの意見を交換する活動を進める。 ○☆児童が発表しやすいように、事前に席を回って、声を掛けておく。 ○サオリちゃんは補聴器をつけることは当たり前だと思っていて、かわいそうだと言われたことにびっくりしたことを伝える。	サオリちゃんの話 サオリちゃんや友達の絵や吹き出し ワークシート
「補聴器はぼくだけだから恥ずかしい」という俳句を書いたサトシ君の話 ・話を聞いて、サオリちゃんにとっては当たり前につけている補聴器をはずかしいと思う子もいたということを知る。 ・メガネをかけている子の気持ちを考える。	○俳句を見せ、サトシ君を身近に感じられるようにする。 ○人それぞれ感じ方がちがうということに触れる。 ☆実際にクラスでメガネをかけている子に声をかけ、感想を引き出す。	サトシ君の俳句
5　学習したことを振り返る。 ・ワークシートに記入し発表する。	○☆児童が発表しやすいように、事前に席を回って、声を掛けておく。 ○学級の子どもたちが相手の立場に立って考え行動することが続くように、絵本を後日担任に読み聞かせしてもらい、更に理解を深める。 ◆きこえにくさを知ることを通して、相手の立場を思いやる大切さに気付くことができる。	ワークシート 絵本「どんなかんじかなあ」

サオリちゃんの作文

サオリちゃんは４年生の女の子です。うまれつき耳が悪くて２歳から補聴器をつけたことをクラスで話しました。そして、友達に補聴器体験をしてもらいました。授業の終わりに友達に感想を話してもらいました。ある子は、「補聴器はいらない音は大きく聞こえたので、これからは静かにしようと思います。」と言っていました。もう一人の子は「サオリちゃんは補聴器をしていてかわいそうだと思いました。」と言っていました。

サオリちゃんはびっくりしました。二つ目の「補聴器をしていてかわいそうだ」という感想にです。サオリちゃんにとって、補聴器をつけることはよく聞こえるようにするためで当たり前のこと。自分のことをかわいそうと思ったことなんて一度もなかったからです。